

みんなの党の磯部圭太でございます。

私は、みんなの党横浜市議員団を代表し、林市長、並びに山田教育長に対しまして、順次、質問をさせていただきます。

最初に、市長の市政運営に対する姿勢について、お聞きいたします。

まず、林市長が、

**(1)市長職にあって、これだけは譲れないもの、大事にしているものは何か。要するに市政運営における芯とは何か。市長のお考えをお聞きいたします。**

なぜ、このようなことを聞いたかと言いますと、議員になって地域をまわると、市長の待機児童政策にかける思いは良くわかる。しかしながら、それ以外の市長の思いが見えない。イマイチやりたいたことがわからない。このような声を耳にすることがよくあります。市長の市政運営の姿勢がどんなに素晴らしくても、その内容が積極的に発信され、市民に伝わらなければ、市民や企業の方々の理解、協力も得られない。このように考えています。そこで、

**(2)市長の市政運営への姿勢を発信し、市民に伝えることの重要性について、市長のお考えをお聞きいたします。**

市民に市長の考えや姿勢を発信する、という点から考えると、市民と一緒に施策や事業に取り組むことを通し、市長の考えや姿勢を知ってもらい、という視点も重要となります。本市では、過去において、多くの市民や企業の方々と取り組み、素晴らしい成果を出した政策があります。しかし、林市政では、そのような取り組みは見えてこない、と感じています。そこで、

**(3)具体的に、市民や企業の方々と一緒になって取り組んでいくという施策、事業があるのか、お聞きいたします。**

市民や企業の方々と一緒に取り組むためには、発信するだけでなく、目指す姿を市民、企業、行政など、全員で共有することも必要となります。このためには、施策や事業の目標をわかりやすく設定し、共有していくことが非常に重要であると考えます。しかし、待機児童施策を除き、実際には、あまりわかりやすい目標が設定されていないように見えることも事実です。そこで、

**(4)施策や事業の目指すべき目標設定の工夫について、お聞きし、次の質問に移ります。**

次に、外郭団体の資金運用について、お聞きいたします。

昨今、国の独立行政法人、地方自治体の外郭団体等への、不信感が強まっています。

平成23年度ハマの台所事情によると、本市においては、資産が外郭団体も含めて約10兆円あるのに対し、借金が約5兆円あります。

本市の財政状況は、現時点では健全とも言えますが、今後の財政状況を踏まえると、工夫が必要であります。財政状況をよりよくしていく方法として、本市においては、まずは資産仕分けが必要だと考えます。今回は、外郭団体に計上されている資産の中の投資有価証券について、質問をさせていただきます。

我が会派の平野議員の調査を踏まえ、現在、外郭団体の投資有価証券において、更なる損失が

出てしまう危険性がある商品が多数あり、本市に対応を求めています。その中身とは、金融派生商品、いわゆるデリバティブであります。ハイリスクな商品だとも言われています。特に仕組債が多く含まれています。また、破産時の債務弁済順位の劣る通常の債権よりリスクの高い劣後債などを買っている外郭団体が存在しています。仕組債だけでも把握している中で、外郭団体の 8 団体、総額 80 億円を超えると伺いました。そこで、

**(5) 外郭団体が仕組債といった、リスクの高い債券を保有していることに関する市長の認識をお聞きいたします。**

そもそも本市が、外郭団体に送付しているガイドラインにおいては、資産運用の原則があり、その雛形①に財産運用の方法においては、第三条、基本財産及び運用財産のうち、一定のものについては、元本が確実に回収できる方法で行うものとする。そして、その 2 項では、前項以外の資産の運用については、元本が回収できる可能性が高く、かつ、なるべく高い運用益が得られる運用方法で行うものとする、となっています。金融商品取引法では、投資型金融商品を購入する際には、リスクとリターンの重要事項説明などの説明を受けないと購入できないようになっています。その際においても、低リスク、ハイリターンな運用を目指す場合には、その投資商品は購入できません。そもそも、低リスク、ハイリターンな運用など、この世の中に存在しないからです。にもかかわらず、本市の外郭団体に、このようなガイドラインを提示していること自体が問題であるとも言えます。

先日、AAA 格付けの国、ノルウェーの政府系機関、ノルウェー輸出金融公社が、突然、格付け機関ムーディーズから投機的水準に格下げされました。ジャンク債級まで、格下げされたわけです。このノルウェー輸出金融公社の仕組債が、都市整備局の外郭団体だけでも、7 億円保有していることがわかっています。他の外郭団体でも、この債権を保有していないかを確認することを要望すると同時に、運用指針を格付けで示している中では、今回のような、格下げの際の指針は明記されていません。そこで、

**(6) 格下げされた際には、どこで損切りするのか。あるいはそれでも満期まで保有し続けるのか、市長の意向をお聞きいたします。**

投資型金融商品には、リスクリターン分類がされています。5 段階の分類で見ると、基本はレベル 1、元本確保、行政もこれを最優先でやるべきです。外貨、外債の外貨建てのレベル 3 相当の投資は禁止しているのに、これ以上のリスクが存在するデリバティブ取引を可能にしていることは問題です。この問題を含めて、本年 4 月 20 日に新たに外郭団体の適正な財産運用に関する指導の徹底なるガイドラインが策定されましたが、このガイドラインも、不十分であると考えます。例えば、仕組債は原則禁止という通達を出したとのことですが、実際には 10 年以上の満期のものとなっています。数年の仕組債でも高いリスクがあることには変わりはありません。欧州危機、世界の金融危機が再来している中で、このような含み損や、損失が今後も出てくることも想定されます。そこで

**(7) 新たに作られた、外郭団体の適正な財産運用に関する指導の徹底なるガイドラインを、再度策定し直す必要があると考えますが、市長の見解をお聞きいたします。**

外郭団体の経営が、もしも、株式会社のように会社法にそっていた場合はどのようになっていたのでしょうか。会社であれば、ずさんな運用をして、損失が出た場合には、経営責任を問われます。すでに減損処理をしている債券もあるといいます。このような投資をして、責任を問わずに放置しておいて市民は納得するのでしょうか。そこで、

**(8)これらの投資に対する責任は誰にあり、どう問うべきか。市長の考え方を教えてください。我が会派としても、今後、これらの処理方法や、このようなガイドラインの修正について提案していきたいと考えています。**

本市には公営企業、外郭団体等に存在する資金等を、本市自身が管理できるようにすることを要望すると共に、外郭団体等の埋蔵金を今まで以上に、可能な限り、最大限発掘し、市民のための財源、借金返済のための財源に使えるようにすることを要望し、次の質問に移ります。

次に、事業見直しについて、お聞きいたします。

本市における財源をどのように捻出するか。その点では最大限予算を徹底的に見直し、業務の効率化、少ない予算で最大限の効果が上がる施策が必要だと考えます。

その中では、現在行われている事業見直しは、大変重要な役割を持つものと考えています。

大事なことは、事業見直しは、金額ありきではない部分もありますが、経営論で判断できる部分は目標設定をすべきであり、組織も事業も、選択と集中が必須であると考えます。

一方で、コストで割り切れない事業においては、PDCAのPDがきっちりオープンにされる必要があると考えています。そこで、改めて

**(9)これまでの事業見直しにおける課題は何か、お聞きいたします。**

また、次年度の予算編成に向けてまさに今行われている

**(10)今回の事業見直しの特徴と改善点は何か、お聞きいたします。**

本市ではこれまでも様々な事業において、事業の見直しをされてきたことを伺っております。その際に重要になるのが、聖域の排除と縦割り行政の弊害をクリアーしていくことです。

これまでの事業見直しにおいても、会派では、政策、総務、財政の連携による横串でのチェック機能の強化はもとより、各所管部署や議会との情報、意識共有による目的、目標共有型の悉皆の事業見直しを提唱して参りました。それは、行政全体の改革意識を高めるのみならず、複合化、多重化している戦略マネジメント部門の効率化につながるものであると考えるからです。そこで、これらの指摘も踏まえ、

**(11)事業見直しの進捗状況と、24年度予算編成において、特に注視するポイントと、その具体的な取り組みをお聞きし、次の質問に移ります。**

次に、職員の不祥事についてお聞きいたします。

今年度、本市職員による不祥事が多く報道されているように感じています。特に、教職員によるわいせつ事件、市民の安全を守る消防職員の公用車の不正利用など、ほぼ大部分の職員は真面目に職務に取り組んでいる中で、ほんの一部の職員による不祥事であっても、本市としての信用

を失墜しているといわざるを得ません。市長がよくご発言される「おもてなしの心」、「共感と信頼の市政運営」の根幹にかかわる問題でもあります。そこで、

**(12)本市の信用を失墜する不祥事が多く発生している原因について、市長の認識をお聞きいたします。**

また、

**(13)不祥事により、本市の信用を失墜していることについての市長の見解をお聞きいたします。**

個々の事案を伺うと、こういった不祥事については、これをやればなくなるといった特効薬となるような対策はないのではないかと思います。しかしながら、このままの状況が続けば、ますます市民の信頼を失ってしまう事態に陥ってしまうと思います。これ以上、本市として市民からの信頼を欠くことのないよう、市長の言う「共感と信頼の市政運営」を実現するためにも、不祥事防止に取り組むべきと思いますが、

**(14)再発防止に向けて、どのような考え方で取り組むのか、市長のお考えをお聞きし、次の質問に移ります。**

次に、本市の障害児施策について、お聞きいたします。

本市では他都市に先駆けて、障害のある子どもたちの早期発見・早期療育に取り組み、現在は、平成 25 年度の開設を目指し、8 館目の地域療育センターの整備を進めているところです。地域療育センターにおいては、知的障害児、及び肢体不自由児の通園部門が整備されていますが、最近の傾向として医療部門に受診する子どもたちの中で、知的な遅れのない発達障害の子どもたちが増加していると聞いています。そこで、

**(15)発達障害児への支援は、どのように取り組んでいるのか、お聞きいたします。**

併せて小学校から高校までの学齢期間中について、障害児を含む家族全体の在宅生活を幅広く支援していくことも重要なものと考えます。そこで、

**(16)在宅生活を送る障害児及び、その家族に対する支援策を、今後どのように進めていくのか、お聞きいたします。**

また、在宅生活を送る障害児世帯において、不安な養育が認められれば、家庭を離れて施設での養育を考えざるを得ないと思います。そうした場合には、入所施設において生活全般に渡る支援を行うこととなります。特に知的障害児においては、コミュニケーションの課題があることから、養育に対する支援を求める世帯も多いのではないかと思います。

市立の知的障害児施設として泉区に横浜市なしの木学園があります。私は先だって施設を視察しましたが、当施設は、昭和 55 年の開所以来 30 年以上が経過し、建物の老朽化が著しく進んでいます。劣悪とも言える環境の中で、大勢の児童が生活している姿を見て、胸が痛みました。同施設を市長も 7 月に訪問されたと伺いました。そこで、

**(17)なしの木学園を訪問しての市長の感想について、お聞きいたします。**

当学園には 40 数名の知的障害のある方が入所しておりますが、利用者については、児童施設であるにも関わらず、入所対象年齢である 18 歳を超えた障害者が入所している現状にあります。結

果として入所の必要な児童が入所できない状況になっているのではないかと思います。児童福祉施設本来の役割を果たすためにも、大人には大人として、障害者支援施設なり、グループホーム等への移行が必要であると考えます。そこで、

**(18)18歳以上の入所者について、どのような支援を行っていくのか、お聞きいたします。**

利用者が生活している居住棟も見せていただきましたが、個別支援の必要性から4人部屋に間仕切りを入れ、鍵をつけるなどしております。入所者相互の安全確保のために、不測の事態を避けるという面での必要性は理解できますが、防災の面から安全性に課題があるように思います。施設のハード面での安全性の向上や利用者の特性に合わせた居室の少人数化や個室対応などの課題には、再整備などの抜本的な対策が必要なのではないかと考えます。そこで、

**(19)現状の様々な課題の解決に向けて、どのように取り組むのか、お聞きいたします。**

施設の老朽化に伴い生じている様々な課題を、一刻も早く改善するよう強く要望して、次の質問に移ります。

次に、中学校の昼食について、お聞きいたします。

中学校昼食のあり方の検討につきましては、先ほども議論がありましたが、非常に重要なことですので、先ほどの質問も踏まえたうえで、2点確認をさせていただきます。まず、あり方検討では、生徒、保護者、教職員に参加をしていただき、より望ましい中学校の昼食のあり方についての意見交換会を実施すると伺いました。そこで、

**(20)意見交換会の具体的な中身について、教育長にお聞きいたします。**

我が会派としては、なるべく広く意見を聞いていただきたいと考えています。なぜなら、お弁当を持参させているご家庭でも、中学校給食を望む声が多いと感じているからです。せつかく実施する意見交換会が潜在的な声もきちんと拾えるような形で実施していただくことを強く要望します。

また、今回アンケート調査を行うわけですが、我が会派としましては、これから自分の子供を中学校へ通わすことになる小学生、特に

**(21)小学校 5,6年生のお子さんを持つ保護者の方々からも意思を伺う必要性があると考えますが、教育長のご見解をお聞きし、私の質問を終わります。**